

他界を見ながら暮らす：アレキーパ県カスティージャ郡ビラコ村の調査報告

上原なつき（名桜大学）

キーワード： コロプナ、カパコチャ、生贄、水儀礼、水路掃除祭り

Vivir mirando el Otro mundo: Informe de Viraco, Distrito de Castilla, Provincia de Arequipa **NATSUKI UEHARA (Meio University)**

Keywords: Coropuna, capacocha, sacrificio, culto del agua, la faena

今回の発表は、前半はアレキーパ県カスティージャ郡を中心に、コロプナ山周辺で実施した現地調査の報告である。後半は、バルデラマとエスカランテ [1997] のコルカ谷の説話集から山に関する説話をいくつか紹介し、今後の調査課題について検討する。

発表者はこれまでアブリマック県アンタバンバ郡を中心に、カトリック祭祀である「死者の日」および他界に関する語りについて調査を行ってきた。アンタバンバでは死後、死者の霊魂はコロプナ山の山頂にあるアヤワシ（死者の家）に行くと言われる。コロプナ山は隣県のアレキーパ県に実在する、万年雪を戴く標高 6377m の火山である。しかし、アンタバンバからは遠方にあるため、その山嶺すら見ることはできない。

アンタバンバの山上他界観を踏まえ、実在する山ではあるものの遠方だからこそ他界と考えられているのであろうかと発表者は疑問を抱いた。そこで、コロプナ山周辺に暮らす人々は目の前にある身近な山を同様に他界と考えているのか、または異なる観念や習俗があるのかを調査した。また、クロニカによれば、インカ期にはコロプナ山は重要な聖山のひとつであったと記録されており、周辺には現在も複数の遺跡が残っている。よって、山だけでなく遺跡に対する人々の認識についても調査を行った。

アレキーパ県カスティージャ郡パンパコルカにはマウカリヤクタ遺跡があるが、ここでは「フアニータ」と同様に、かつてはコロプナ山へ生贄を捧げる儀礼が行われていたと当地の人々は語る。「フアニータ」とは冷凍状態で発見された少女のミイラで、インカ期にアンパト山の山頂でカパコチャすなわち生贄として捧げられたもの

である。また、パンパコルカの人々がマウカリヤクタ遺跡でかつては生贄が捧げられていたと考える理由のひとつとして、近郊に先インカ期の岩絵が残された洞窟があり、そこで発見されたミイラが村内の博物館に展示されていることが挙げられる。

インカ期、生贄はカパコチャと呼ばれたが、考古学者サブチックはカパコチャとはカパック・コチャの 2 語から構成されていることを示唆する [Sobczyk 2022:81]。カパックは「力のある、裕福な、豊富な、重要な、名高い、貴族の、王の、聖なる」という意味であり、コチャは「海、湖、泉、貯水池」という意味がある [González Holguín 1989[1608]:65; Millenium Editora Global 2009:358, 372]。カパック・コチャは「王の湖」ないし「聖なる湖」「豊富な湖」と訳すことができる。すなわち、豊富な水をもたらすよう山に祈るため、少女の生贄が捧げられたと考えられる。他にもカパコチャ／カパック・コチャと水の関連を示すものとして、スポンディルス貝で作製された人形の副葬品が挙げられる。スポンディルス貝とは赤道付近の海岸部で採れる貝で、コチャとの関連性を示すものである。この人形は生贄の少女と同じ服装をしており、生贄を模したものであることがわかる。また現在においても、アレキーパ県では水不足になると、海岸から海水を汲んできて山頂の湖に注ぎ入れると豊富な水がもたらされるといわれる。貝および海水が湖の水を豊富にすると考えられていることから、貝で作られた生贄を模した人形もまた、神に水を乞うための供物といえる。

次に、アレキーパ県ラ・ウニオン郡にあるアヤワシ (Ayahuasi) という村である。この村からも

コロプナ山を眺めることができる。アヤ (aya) は「死者」、ワシ (huasi, wasi) は「家」を意味する。この村の名称の由来もコロプナ山を他界と考えることと何かしらの関連があると推測するが、現段階ではまだ調査できていない。

最後に、先述したパンパコルカの近くにあるピラコである。ここにもカンパナヨクというインカ期の遺跡がある。

ピラコのアルマス広場から見ると、ちょうどコロプナ山と重なるようにカトリック教会が建っている。また、教会の敷地内にはピラコの守護聖人であるサンタ・ウルスラの小聖堂が二つあり、これらもコロプナ山と重なるように配置されている。さらに、二つの小聖堂はコロプナ山を象ったと思われる白い山型の形状となっている。つまり、人々が教会およびサンタ・ウルスラに祈ると、同時にコロプナ山へも祈るような空間配置となっている。また、ピラコのカトリック墓地には山型の墓が 1 基あることが観測できた。このことから、死者とコロプナ山の関連性が読み取れるが、今回の調査では明らかにすることができなかったのが今後の調査課題としたい。

さらに、ピラコではコロプナ山をリンボ (Limbo) と呼ぶ人もいる。リンボとはカトリックの他界のひとつ、地獄の辺境のことである。リンボには洗礼を受ける前に亡くなった子供や旧約時代の善人が行くとされる。なぜコロプナ山をリンボと呼ぶのか、カトリック的他界と山上他界がどのように関連するのかは今後さらに調査する予定である。

今回の調査ではコロプナ山に関する説話を蒐集することができなかったのが、参考として、コロプナ山に程近いコルカ谷周辺で説話を蒐集したバルデラマとエスカランテ [1997] の説話集から、山に関連する説話をいくつか検討した。

女性である山と村のクラーカ (貴族) の結婚によって、山から村にあるヘンティレス (先スペイン期の死者、村の祖先) の墓まで水路が引かれた説話、水路の取水口が壊れたために男女ペアで子供 2 人を生贄に捧げたら、その後は壊れることなく水がもたらされるようになった説話、ミスティ山からもたらされる美しい水はミスティ

山の小便で、その小便が農作物を育てるという説話、水路掃除祭り (La Faena) では男性たちは音楽や音によって山から水を導き、女性たちは山を性的に誘惑しながら駆け下りて水を村まで導く説話などを紹介した。

これらの説話から、現在では処女の生贄カパコチャ/カパック・コチャは行われなくなったものの、人間の女性が山と結婚ないし性的関係を結ぶことで山から村まで水がもたらされ、山の小便ないし精液である水が農作物を育てる生命力を持つという観念があると考えられる。

実際に、アプリマック県アンタバンバで 8 月に行われるマユラ (mayura) という水路掃除に関連する祭りでは、女性たちが山頂の湖にある取水口を開き、水路を流れる水とともに山から駆け下りる。また、色とりどりに飾り付けした木を持って女性たちが大地を打ち鳴らす行為も、音によって水を導いていると考えられる。

以上のことから、今後はコロプナ山、他界、死者、生贄、水、音がどのように関連するのかをさらに調査予定である。

【謝辞】

本研究は、JSPS 科研費：課題番号 20K01232 「アンデス高地における海の文化」(代表者：加藤隆浩) の助成を受けたものです。

【主要参考文献】

- González holguín, Diego, 1989[1608], *Vocabulario de la lengua general de todo el Perú llamada lengua Qquichua o del Inca*. Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima.
- Millenium Editora Global, 2009, *Diccionario Quechua-Español/Español-Quechua*. MMVIII Millenium Editora Global S. A. C., Perú.
- Sobszyk, Maciej, 2022, *Apu Coropuna: Entornos arqueológicos en un oráculo andino: Maucallacta*. UCSM/CEAUV/Ediciones El Lector S. R. L., Lima.
- Valderrama, Ricardo y Carmen Escalante, 1997, *La doncella sacrificada: Mitos del valle del Colca*. UNSA/IFEA, Arequipa.